

電気自動車

2023. 9. 21

この前、初めて電気自動車を運転した。自分の車の点検の日だった。代車だった。ディーラーの担当の方の配慮によるものだった。

それまでも、電気自動車に乗せてもらう機会があった。仕事でいわきに行くことがあった。一緒に行く校長先生に車を出していただいた。その車が、電気自動車だった。助手席に乗せていただいた。次の車は、電気自動車になるだろうと思っている私にとっては、興味津々だった。聞きたいことがたくさんあった。

走り出した。思っていた通り静かである。静かすぎる。車という感じはしない。問題は、一度の充電で、どのくらいの距離を走ることができるかである。私の予想よりは走れる。それだけ、日進月歩の勢いで性能は向上しているのだろう。

普段の通勤用として走るには、何の問題もない。だが、我が家のように、週末に遠出をする傾向にある場合には苦しい。そのたびに、充電ステーションを確認し、充電のための時間も計算しなくてはならない。精神的によくはない。

運転手の校長先生に聞いてみた。「1回の充電で、福島といわきの往復はできるの?」「んー、無理ですね。いわきで、一度充電しますから」という答えだった。福島、いわきを往復できないのか。ちょっときついなというのが、正直な感想だった。

その校長先生は、電気自動車について、いろいろと説明してくれた。おかげで、理解が進んだ。一番驚いたのは、加速のよさである。「意外と、加速はいいんですよ」「そうなの、じゃあ、高速に乗るときにやってみて」本当に加速はよかった。ただ、あまりそうは感じなかった。音が静かすぎる。電気自動車はパワーがなく、加速がよくないと勝手に思っていた私の先入観が打ち砕かれた。

代車の電気自動車に乗った。初めてなので、エンジンのかけ方などを教わった。そして聞いた。「何キロ走れるんですか」「280キロです」意外と走れる。少なくとも点検中の代車の使用距離としては十分である。

走り出した。P、R、N、Dのギアがない。押すだけである。何だかつまらない。目の前には、スピードの表示とともに、残りの走行可能距離と充電率の%が目に入ってくる。これがよくない。何だか焦る。増えるのはいいが、減るのはよくない。お金と同じである。ガソリン車であれば、大抵の場合、ガソリンスタンドがある。電気自動車の場合は、そう簡単にはいかない。走りに計画性が求められる。どこで充電するか。

いわきでは、車のディーラーに立ち寄り、充電させてもらった。その間、30分だった。コーヒーをいただきながら、ゆっくりした。現段階での走行可能距離では、我が家の場合は、まだまだむずかしい。だが、何年か経って私が仕事をやめる頃には、格段に性能がアップしていることだろう。仕事に縛られることがない生活であれば、十分に乗ることができる。ガソリン車のあのエンジン音の心地よさはなくなるが、すぐに慣れるだろう。次の代車も電気自動車にしてもらおう。